

積金儲蓄と時間短縮の運動は人格運動にして餘り貧窮である、支配権の獲得運動は餘り空虚であつて又虚構である。

新人の運動をして批判せらるゝものはデモクラシーであらねばならぬ。然るに労働階級の支配権獲得の思想は半分のデモクラシーではなからぬ。

私は云ひ度い労働運動は眞に人格運動であるを云ふことを社會一般に知らしめたいと思ふ。大正維新の文化は労働者の力で振興され、大正年間の倫理思想は労働者の實行で保持されると云ふ氣概を揚げさしめたいと思ふ、何處までも労働運動は正堂々と天下を闊歩するの氣概あらしめたい、そうして其の運動は歩一歩進捗されて行けば決して行き詰まることはあるまいと思ふ、明日から直に支配権を獲やうとするが如き夢想的運動は一朝不景氣襲來で行詰つて了ふ。

新人の方途は洋々として春海の如しだ、爲すべき事は決して二三の問題に止らない、勵精一番、社會的位置の向上に今幾段の力を致さねばなるまい。

運動の途上

過去の理想と運命に對する矛盾が多いから茲に其數項を擧げて批評して見ゆ。労働者は果して社會から現代運命を享受せしめられたか、社會は労働者に對して神聖たるべき誠意を有つて接して來るか、労働者は果して自ら神聖たるべき地位を以て、其取扱をせしむるべきか、私は現狀を以て、労働者は生活の手段であつて目的では無かつたから何にせよ此階級から脱却せよと思つて居る處は實に自他に自覺して居なかつた。

労働者は神聖なるべき地位を以て、其取扱をせしむるべきか、私は現狀を以て、労働者は生活の手段であつて目的では無かつたから何にせよ此階級から脱却せよと思つて居る處は實に自他に自覺して居なかつた。

労働者は神聖なるべき地位を以て、其取扱をせしむるべきか、私は現狀を以て、労働者は生活の手段であつて目的では無かつたから何にせよ此階級から脱却せよと思つて居る處は實に自他に自覺して居なかつた。